

# (総括評価表) 4 将来に向けた地方創生の取組み

## 現状と課題

熊本が将来に向けて発展するためには、未来を担う子供たちが夢の実現に向かってチャレンジすることができるよう、グローバルに活躍できる力を身に付けられる環境や、質の高い教育環境を提供する必要があります。

また、若者の地元定着を図るためには、県内企業の魅力向上に加え、高校生等に地元企業の良さや熊本で生活することの豊かさを伝える必要があります。

一方、少子高齢化により生産年齢人口が減少する中、多くの産業で人材不足が深刻化しており、社会機能や地域経済を支える産業人材の確保・育成が急務となっています。

県民の安全・安心を守ることは行政の責務であり、年齢、性別等にかかわらず、子供からお年寄りまで、誰もが自分らしく、安心して暮らし続けられる社会の実現が求められています。

豊かで活力に満ちた熊本を実現するため、県民一人ひとりが住み続けたいと感じる魅力ある地域づくりの推進や、県民生活と県経済を支える重要な社会インフラである道路や公共交通の利便性向上が求められるとともに、世界的な環境問題に地方レベルでも積極的に対応するなど、持続可能な社会づくりを進めていく必要があります。

## 取組みの方向性

豪雨災害、新型コロナウイルス感染症、熊本地震という喫緊の課題に対応する中でも、安全・安心で未来への夢と希望にあふれる持続可能な熊本の実現や、将来の発展につながる取組みが必要です。

このような情勢下においても着実に進めていく必要のある施策に、優先順位を見極めながら取組み、地方創生の実現につなげます。

## (2) 重要業績評価指標 (KPI) の動向

評価指標	戦略策定時実績値 (R1)	戦略策定時実績値 (4年累計平均)	R2実績値 (R3評価)	R3実績値 (R4評価)	R4実績値 (R5評価)	単位	指標の動向 (策定時との比較)	目標値 (R5)	種類	達成状況
施策1 次世代を担う人材の育成										
全国学力・学習状況調査で全国平均を上回った項目数	5項目中1項目	—	【中止】	—	—	項目	—	全て	単年	
生徒の英語力 中3:英検3級相当取得率 高3:英検準2級相当取得率	中3:27.1%	—	26.3	—	—	%	⇒	中3:40.0%	累計	
	高3:32.9%	—	34.4	—	—	%		高3:45.0%	累計	
施策2 若者の地元定着と人材育成										
新規学卒就職者(県内高校)の県内就職率	61.3%	—	62.9	—	—	%	↗	65.0%	累計	
ブライ企業に就職した新卒学生数	3,239人/4年	809.75人/年	1,807	—	—	人	↗	3,600人/4年	4年累計	
農林水産業の新規就業者数	527人/年 (H30)	—	【集計中】	—	—	人/年	—	690人/年	単年	
看護職員数	34,248人 (H30)	—	35,070	—	—	人	↗	36,900人	累計	
介護職員数	30,859人 (H30)	—	【集計中】	—	—	人	—	33,878人	累計	
介護ロボット・ICT機器を導入している入所施設の割合	21.9%	—	30.4	—	—	%	↗	50.0%	累計	
新規学卒就職者(県内中学・高校)の県内建設業就業者数	178人/年	—	181	—	—	人/年	↗	180人/年	単年	

## (1) 実現に向けた施策

### 施策1 次世代を担う人材の育成

#### 【具体的な施策】

R3	事業数	予算額
	33	2,006,292千円

- ① きめ細かな教育による学力の向上
- ② グローバル人材の育成
- ③ 魅力ある学校づくり

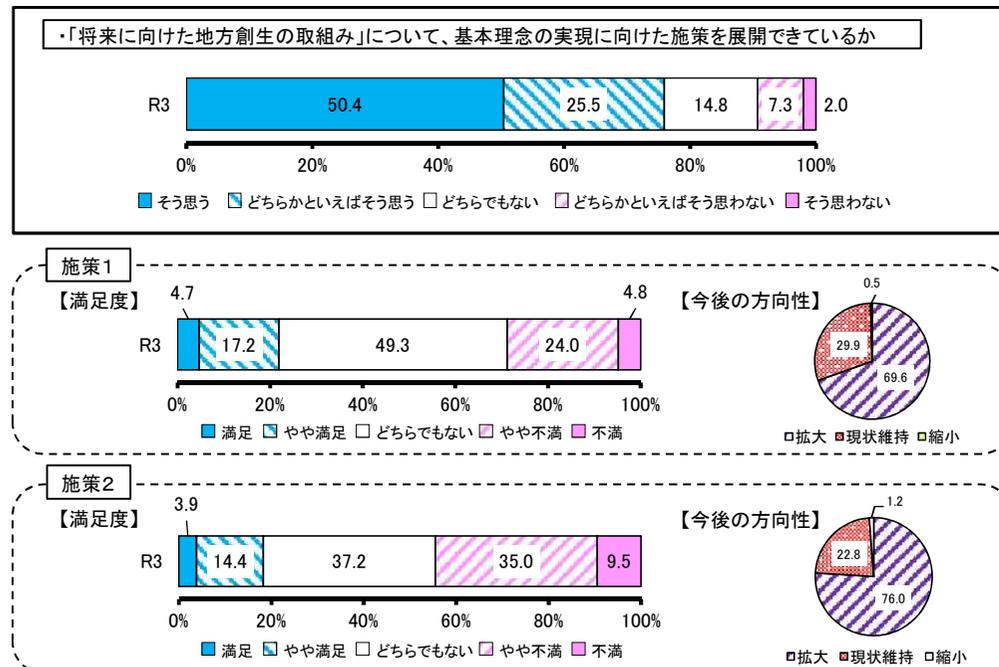
### 施策2 若者の地元定着と人材育成

#### 【具体的な施策】

R3	事業数	予算額
	55	4,003,946千円

- ① 若者の地元定着
- ② 産業人材の確保・育成

## (3) 県民アンケート



○令和2年度の主な成果・今後の課題や方向性

令和2年度の主な成果	今後の課題や方向性
------------	-----------

【施策1】次世代を担う人材の育成

①児童生徒1人1台端末整備に向けて、県立学校における先行実践校18校等へ端末約1万台を整備、市町村立学校及び私立学校の整備支援を行った。また、きめ細かな指導による学力向上を図るため、市町村立の中学1年生での35人学級編制を導入した。さらに、誰一人取り残さない学びの保障と教員一人一人の授業力向上に取り組む「『熊本の学び』※アクションプロジェクト」を策定した。

②グローバル人材の育成に向け、高校での英検IBA※の受験実施や中高生の検定試験受験料の一部補助、教員の指導力向上に取り組むとともに、世界チャレンジ支援基金を活用し、高校生40人の海外大学オンライン講義受講等を支援した。また、「海外チャレンジ塾」では、生徒5名が海外大学に進学した。さらに、外部有識者からなる「県立高等学校あり方検討会」を設置し、提言をもとに、魅力ある学校づくりに向けた取組みの方向性をまとめた。

①端末整備を完了するとともに、児童生徒の情報活用能力の育成や教員のICT活用指導力向上等、ソフト面の強化に取り組む。また、少人数学級を推進するとともに、学力向上重点支援地域への学力向上アドバイザーの配置等により「熊本の学び」を推進し、子供たちの学力向上を目指す。

②オンラインによる海外インターンシップ研修の検討や、海外渡航再開時の速やかな海外研修や海外進学、留学等への支援により、グローバル人材の育成を推進する。また、スクールミッション※の策定や国際バカロレア認定校※の認定に向けた検討など、魅力あふれる県立高校づくりを進める。



県立高校における端末を活用した授業



高校生の海外大学オンライン講座

※熊本の学び：熊本の全ての子供たちが、「学ぶ意味」を問いながら、「能動的に学び続ける力」を身に付ける学び。

※英検IBA：日本英語検定協会が作成した英語のリーディング力とライティング力を測定する試験。

※スクールミッション：学校が自校の実状等を踏まえ、将来目指すべき学校像を理念と共に明示し、教職員にも教育活動の理念として共有されるもの。

※国際バカロレア認定校：国際バカロレア機構(非営利団体 本部ジュネーブ)の認定を受けた学校。多様な文化の理解等を通じた、国際的かつ探求心に富んだ若者の育成を目的とし、国際的な大学入学資格の取得が可能。

【施策2】若者の地元定着と人材育成

①若者の県内定着について、ブライツ企業等と高校生・大学生等を対象とした企業説明会(対面、オンライン形式)を5回実施し、延べ179社、786人が参加したほか、インターンシップに係る企業の支援を行った。また、企業と連携した奨学金返還等サポート制度を推進し、R3年度就職者を対象とした参加企業が85社(R2年度：57社)に増加し、就職予定者の登録も前年度から倍増した。

②新規就農支援センターで887件の就農相談に対応したほか、企業の農業参入や、果樹園での経営承継に向けた取組みを推進した。また、林業大学校での技術習得支援、漁業体験から就業・定着までのワンストップ支援等を実施した。

③医療・福祉分野では、医学生・看護学生計207人への修学資金の貸与(再就職支援含む)や、医師不足の医療機関への医師派遣(27人)のほか、入所施設等115事業所への介護ロボット等導入支援による介護職員の負担軽減等に取り組んだ。また、離職者を対象とした就労相談等を行い、314人の看護職員の再就業につながった。

④建設分野では、高校生を対象としたガイダンスや現場実習支援を実施し、また、若手技術者等の資格取得や企業の働き方改革等を支援した。

①新型コロナウイルス感染症による地方回帰の流れを捉え、就職を控えた高校生及びその保護者に対し、県内企業の魅力発信を行い、県内就職率の向上を図る。また、奨学金返還等サポート制度の周知・広報を強化し、登録者及び参加企業の更なる増加を図る。

②農林水産業の新規就業者の確保・育成のため、若い世代への教育、オンライン相談会の開催をはじめ、就業形態やステージに応じたきめ細かな支援を実施する。また、「くまもと農業経営継承支援センター」を設立し、リタイアする農業者の経営資産を次世代に繋ぐ取組みを推進する。

③医療・福祉分野の人材確保のため、修学資金の貸与や地域での活躍が期待される総合診療専門医の育成、出前講座による看護職の仕事内容等の周知啓発を進めるとともに、職員の負担軽減、勤務環境改善の取組みを支援する。

④建設産業の人材確保のため、オンラインやメディアを活用した建設産業の魅力発信を行うとともに、企業の勤務環境改善の取組みへの支援を継続して実施する。



対面・オンライン形式企業説明会



くまもと農業経営継承支援センター開所式



介護ロボット活用の様子



建設企業の魅力発見フェア

# (総括評価表) 4 将来に向けた地方創生の取組み

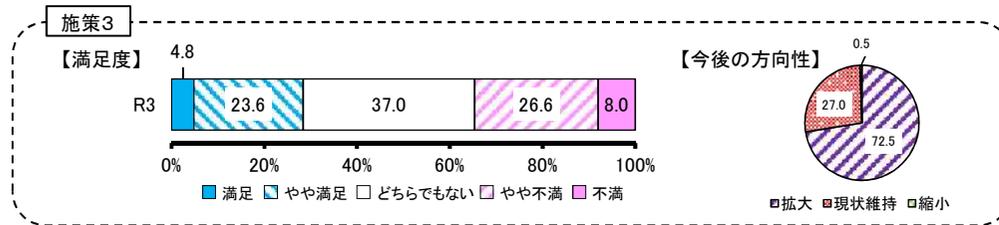
## (1) 実現に向けた施策

<b>施策3 安全・安心な社会の実現</b>			
【具体的な施策】	R3	事業数	予算額
		185	39,924,432千円
①	子供を安心して産み、育てられる環境整備		
②	子供からお年寄りまで、誰もが安心して暮らせる地域づくり		
③	一人ひとりが尊重され、自分らしく暮らせる社会の創造		

## (2) 重要業績評価指標 (KPI) の動向

評価指標	戦略策定時実績値 (R1)	戦略策定時実績値 (4年累計平均)	R2実績値 (R3評価)	R3実績値 (R4評価)	R4実績値 (R5評価)	単位	指標の動向 (策定時との比較)	目標値 (R5)	種類	達成状況
施策3 安全・安心な社会の実現										
「結婚支援」、「一般不妊治療助成」、「早産予防対策事業」の全てに取り組む市町村数	31市町村	—	34	—	—	市町村	↗	45市町村	累計	
保育所等利用待機児童数	178人	—	70	—	—	人	↗	0人	累計	
登録里親数	214世帯	—	232	—	—	世帯	↗	348世帯	累計	
くまもとスマートライフアプリ登録者の平均歩数	5,300歩	—	5,600	—	—	歩	↗	6,300歩	累計	
農福連携コーディネート事業での契約件数	11件	—	46	—	—	件	↗	50件	累計	
交通事故死傷者数	5,161人/年	—	4,033	—	—	人/年	↗	前年比減	単年	

## (3) 県民アンケート



【施策3】安全・安心な社会の実現

①結婚支援、不妊治療助成及び早産予防対策をはじめ、待機児童解消に向けた人材確保や施設整備等に取り組むとともに、社員の仕事や結婚、子育て等を応援する「よかボス企業」の取組みにより(R2年度199件増)、子供を安心して産み、育てられる環境整備を推進した。

②児童家庭支援センターを3カ所新設し、市町村と連携を強化するとともに、児童相談所毎に里親のリクルート等を行うフォスタリング機関を2カ所設置し、里親制度の周知を行うなど、子供を社会で守り育てる体制の整備を進めた。

③認知症対策については、認知症サポーター養成数が37万人を突破し、人口比で12年連続日本一を達成した。また、若年無業等の職業自立支援により94人が就職等進路決定した。さらに、障がい者の就労については、就労相談支援により239人が一般事業所に就職するとともに、農福連携の推進により、JA選果場、農業法人とのマッチングが実現した。

④道路標識標示や信号機等の整備を推進するとともに、歩行者優先対策、高齢者の運転免許証の自主返納促進、通学路点検等の交通事故防止対策等を実施し、交通事故発生件数がR1年より952件減少、負傷者数が1,105人減少、死者数が23人減少した。また、犯罪被害者等の支援のための条例を制定し、再犯防止を推進するための計画を策定した。

①行政、企業だけでなく、地域の「よかボス」を増やすとともに、新たに開始する婚活応援パスポート事業や、特定不妊治療助成制度の拡充等を含め、市町村と連携した結婚・妊娠・出産の支援を推進する。また、待機児童の解消に向け、施設整備等による受け皿の拡大と保育士の更なる確保に取り組む。

②R3年度に児童家庭支援センターをさらに3カ所新設し、児童相談体制の一層の強化を図る。

③認知症サポーター等で支援チームをつくり、サポート体制の更なる強化を図るとともに、健康無関心層の行動変容の促進による県民の健康寿命の延伸や、高齢者の就労機会の拡大等による生涯現役社会の実現に向けた取組みを推進する。

④モデル校区における通学路見守りカメラの設置、高齢者に対する運転技能自動評価システムを活用した交通安全教育等の実施等により、地域の治安対策及び交通事故防止に向けた取組みを強化する。また、犯罪被害者等の経済的な負担の軽減や新たな犯罪被害者を生まないための取組みを進める。



KUMAMOTOよかボスアワード  
2020知事表彰式



©2010熊本県くまモン  
認知症サポーター  
くまモンロゴマーク



農福連携による  
サラ玉苗の定植作業



県警ひまわり隊による  
交通安全教育の活動状況

# (総括評価表) 4 将来に向けた地方創生の取組み

## (1) 実現に向けた施策

<b>施策4</b>	<b>魅力ある地域づくり</b>		
【具体的な施策】	R3	事業数	予算額
		65	19,347,767千円
①	交通体系の最適化		
②	持続可能な地域づくり		
③	スポーツ・文化による地域活性化		

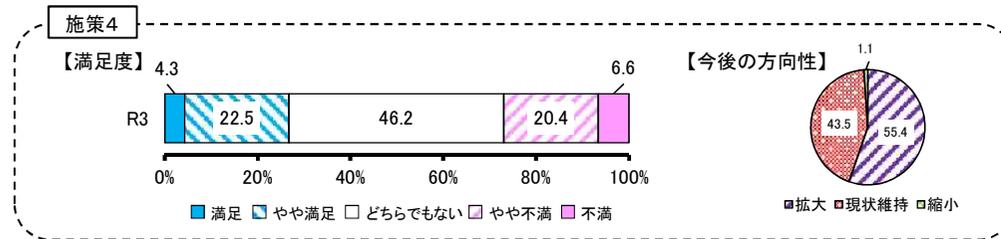
## (2) 重要業績評価指標 (KPI) の動向

評価指標	戦略策定時実績値 (R1)	戦略策定時実績値 (4年累計平均)	R2実績値 (R3評価)	R3実績値 (R4評価)	R4実績値 (R5評価)	単位	指標の動向 (策定時との比較)	目標値 (R5)	種類	達成状況
施策4 魅力ある地域づくり										
県による新たな地域資源の掘り起こしや市町村等と協働して行う地域づくりの取組件数	96件/4年	24件/年	31	-	-	件	↗	120件/4年	4年累計	
プラスチックごみ分別回収(容器包装リサイクル法対象)に取り組む市町村数	39市町村	-	39	-	-	市町村	⇒	45市町村	累計	
県内企業・団体等の「再エネ100宣言 RE Action」参加数	-	-	1	-	-	団体	↗	10団体	累計	

○ 施策横断的な取組み

評価指標	戦略策定時実績値 (R1)	戦略策定時実績値 (4年累計平均)	R2実績値 (R3評価)	R3実績値 (R4評価)	R4実績値 (R5評価)	単位	指標の動向 (策定時との比較)	目標値 (R5)	種類	達成状況
SDGs登録制度における登録事業者数	-	-	-	-	-	件	-	300件	累計	

## (3) 県民アンケート



【施策4】魅力ある地域づくり

- ①熊本都市圏と県内主要都市を結ぶ「90分構想」の達成に向けて、天草地域における本渡道路の橋梁工事や大矢野道路について測量調査を進めた。
- ②県内バス交通について、県内バス事業者5社による共同経営への移行を支援し、全国で初めて国の認可を得た。
- ③五木村振興交付金の活用等により、村の観光・物産振興や移住・定住等を支援した結果、宿泊者数が前年比約1.3倍(3,168人)、移住者数が過去最高(18人)となるなど、村の振興が着実に進んだ。
- ④くまもとらしいエコライフの普及啓発や、CO2ゼロアイディアコンテスト、農業団体等と連携した廃プラスチック類の流出防止など、環境に配慮した取組みを実施した。また、2030年度の県内再エネ電力自給率50%目標等を定めた「第2次熊本県総合エネルギー計画」を策定した。
- ⑤豊かな地下水を守るため、大津町で新たに水田湛水事業を開始するとともに、事業費確保のため、地下水採取事業所を戸別訪問し、約43%の事業者から協力を得た。
- ⑥全国で過去最大(18県52事例)の鳥インフルエンザが発生する中、防疫体制強化に向けた指導を徹底するとともに、消毒命令に併せた消石灰散布指導を実施し、県内での発生を防止した。また、鳥獣被害対策では、地域で被害防止に取り組む21地区を支援したほか、県南農業高校2校で狩猟・鳥獣被害講座を開催するなどし、高校教師1名、高校生12名が狩猟免許を取得した。
- ⑦火の国サラマンダースと地域活性化連携協定を締結し、プロスポーツチームとの連携体制を強化した。また、くまもと復興国際音楽祭(序章)や、熊本県芸術文化祭を動画配信形式により実施するなど、コロナ禍の状況においても文化・芸術の振興に取り組んだ。

- ①本渡道路についてはR4年度の開通に向け橋梁工事を推進するとともに、大矢野道路についてはR4年度からの工事着手に向け用地買収を進める。
- ②共同経営計画(第2版)の策定を支援するとともに、熊本市と連携し、バス共同経営の取組みを支援する。
- ③新たに積み増す五木村振興基金の活用を含め、今後できるだけ早く県から村へ、流水型ダムを前提とした村の新たな振興に向けた方向性を提案し、協議を進める。
- ④CO2排出削減に向け、新たな県民運動や事業者の取組み、県庁率先行動等を加速するとともに、海洋プラスチックごみ削減に向け、回収・啓発による流出防止、市町村への分別回収支援等によるリサイクル推進を図る。また、再エネの導入ポテンシャルが高い地域での陸上風力、地熱、小水力等地域と共生した再エネの導入を促進する。
- ⑤地下水の涵養量を増加させるため、新たな水田湛水事業地の検討や財源確保に向けた取組みを実施する。
- ⑥豚熱や鳥インフルエンザの検査体制を確保するとともに、ため池における渡り鳥の飛来防止対策を行うなど、関係機関と連携した対策を推進する。鳥獣被害に対しては、「えづけSTOP!対策」を基本とした取組みを進めるとともに、狩猟者の参入・育成を支援する。
- ⑦県内の3つのプロスポーツチームと連携してより効果的な情報発信を行うなど、交流人口の拡大や地域の活性化を図るとともに、スポーツ施設のあり方についても検討を進める。また、くまもと復興国際音楽祭や熊本県芸術文化祭の実施等により、引き続き、文化・芸術を次世代につなぐ取組みを推進する。



本渡道路整備状況(R3年5月撮影)



CO2ゼロアイディアコンテスト



火の国サラマンダースとの連携協定



海洋プラスチックごみ削減啓発



水田湛水事業(大津町)



熊本県芸術文化祭